平成 31 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1)事業者の類別

類別	（類別の説明） Ⅰ類　A事業所のみを有する特定事業者 Ⅱ類　B事業所を有する特定事業者（Ⅲ類の事業者を除く） Ⅲ類　C事業所を有する特定事業者 Ⅳ類　任意事業者
Ⅱ類	

(2)地球温暖化対策事業者

事業者名	ＡＧＳ株式会社	
所在地	埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷４－３－２５	
事業者番号	0057	
燃料等使用量の原油換算の合計量（前年度）	3,285	kL／年
大規模小売店舗面積（単独で1,500KL未満で延床面積10,000㎡以上の事業所）		㎡
産業分類名（中分類）	情報サービス業	
分類番号（中分類）	39	
事業活動の概要（事業内容、従業員数、資本金等）	事業内容　：情報処理サービス ソフトウェア開発 その他情報処理サービス システム機器販売 従業員数　：760名 延床面積　：25,201.13㎡	
商標又は商号（連鎖化事業者のみ）		

(3) 県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事 業 所 名	前年度の原油換算エネルギー使用量（ｋL）
A、Bテナント等事業所			
A	005700	ＡＧＳ株式会社　本社（ＡＧＳビル）	1,489
Bテナント等	005701	ＡＧＳ株式会社　本社(さくら浦和ビル)	1,796
B、C事業所			
合計			3,285

(4) 公表方法

○	インターネット利用による公表	アドレス	http://www.ags.co.jp/csr/environment/index.html
○	事業所での備え置き（複数可　書ききれない場合は別様としてください）	閲覧場所１	本社（ＡＧＳビル）
		所在地１	埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷４－３－２５
		閲覧可能時間１	平日 09:00～17:00（12月30日、31日を除く）
		閲覧場所２	
		所在地２	
		閲覧可能時間２	
	その他		

(5) 公表の担当部署

	名 称（複数可）	連 絡 先		
		電話番号	ＦＡＸ番号	E-mailアドレス※
1	総務部	048-677-6623	048-677-6625	ags-ga.mg@ags.co.jp
2				
3				

※　担当者個人のメールアドレスは記入しないこと。

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

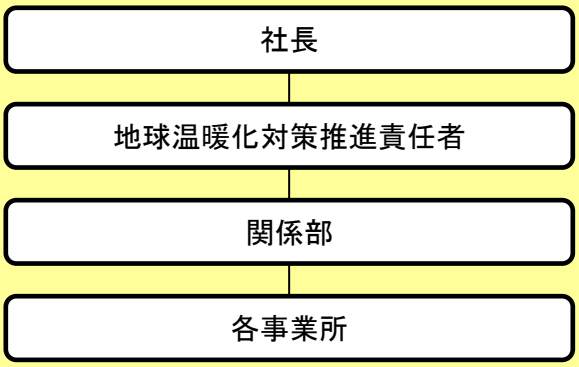
ＡＧＳグループは、「ＩＴで夢のある社会づくり」を使命とする企業理念のもとに、環境保全と事業活動の調和を図り、持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

企業理念に基づき、次の環境マネジメント活動を実施する。
1.　すべての事業活動において、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減を推進する。

２．ＡＧＳグループが提供するソリューションや各種商品・サービスを通じて、お客様の環境への負荷軽減に貢献する。

３．基本方針を達成するため、環境目的・目標を設定し、ＡＧＳグループ全社員をあげて環境マネジメントを推進する。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO_2換算（ｔ-CO_2）

	２７年度（2015年度）	２８年度（2016年度）	２９年度（2017年度）	３０年度（2018年度）	３１年度（2019年度）
エネルギー起源CO_2	6,710	6,616	6,383	6,519	
その他ガス					
温室効果ガスの合計	6,710	6,616	6,383	6,519	

5 各事業所の計画

別紙　事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告　のとおり

平成	31	年度	事業者番号	0057	事業所番号	005700

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1　事業所の概要

(1)事業所種別

事業所種別	
A	A　原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所（合算）

(2)事業所及び事業内容

代表事業所名	AGS株式会社　本社（AGSビル）		前年度における事業所数	4
代表事業所所在地	市区町村	埼玉県さいたま市浦和区		
	字・地番	針ヶ谷4丁目3番25号		
当該事業所を含む事業所の名称（※Bテナント等の場合のみ記入）				
産業分類名（中分類）	情報サービス業			
分類番号（中分類）	39			
事業活動の概要	事業内容 従業員数等	事業内容　:情報処理サービス、ソフトウェア開発 その他情報処理サービス システム機器販売 従業員数　:546名		

2　事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1)第2計画期間の削減目標

計画期間	27	年度	～	31	年度
削減目標　エネルギー起源CO_2（必須）	1.情報サービス業の事業所　平成25年度のエネルギー起源CO2排出量原単位（2.2177）を基準として、平成31年度まで原単位を毎年1％改善する。 2.ソフトウエア開発業の事業所　平成25年度の排出量原単位（0.0861）を基準として、平成31年度までに原単位を毎年1％改善する。				
削減目標　その他ガス					

(2)第3計画期間の削減目標

計画期間		年度	～		年度
削減目標　エネルギー起源CO_2（必須）					
削減目標　その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	AGS株式会社　本社（AGSビル）	埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4丁目3番25号
2	国保会館	埼玉県さいたま市中央区大字下落合1704
3	浦和ソリューションセンター	埼玉県さいたま市南区沼影1-13-1ナリア・テラス3階
4	富士さいたま新都心ビル西館	埼玉県さいたま市大宮区北袋町一丁目299番地12
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※　入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。　　日本工業規格A列4番

事業所番号	005700

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告（A、Bテナント等事業所用）　　A事業所（2）

3　事業所の温室効果ガス排出量

(1)原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー使用量(kL)	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	31年度(2019)
	934	1,058	1,206	1,489	

(2)計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO_2換算（t-CO_2）

		計画期間				
		27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	31年度(2019)
エネルギー起源CO_2		1,846	2,090	2,382	2,945	
その他ガス	非エネルギー起源CO_2					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		1,846	2,090	2,382	2,945	

(3)計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO_2）

CO_2換算（t-CO_2/指標）

				計画期間				
				27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	31年度(2019)
エネルギー起源CO_2排出量原単位								
活動規模の指標					別紙「AGSビル分」、「AGSビル以外」参照			

日本工業規格A列4番

事業所番号	005700

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告（A、Bテナント等事業所用 **AGSビル分** A事業所（2）

3 事業所の温室効果ガス排出量

(1)原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー使用量(kL)	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	31年度(2019)
	828	937	1,068	1,353	

(2)計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO_2換算（t-CO_2）

		計画期間				
		27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	31年度(2019)
エネルギー起源CO_2		1,637	1,853	2,113	2,676	
その他ガス	非エネルギー起源CO_2					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		1,637	1,853	2,113	2,676	

(3)計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO_2）

CO_2換算（t-CO_2/指標）

				計画期間				
				27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	31年度(2019)
エネルギー起源CO_2排出量原単位				2.0037	2.0229	1.9157	1.7924	
活動規模の指標								
	○	UPSのCO2排出量	t-CO2/年	817	916	1,103	1,493	

日本工業規格A列4番

事業所番号	005700

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告（A、Bテナント等事業所用 **AGSビル以外** A事業所（2）

3 事業所の温室効果ガス排出量

(1)原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー使用量(kL)	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	31年度(2019)
	106	120	137	137	

(2)計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO_2換算（t-CO_2）

		計画期間				
		27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	31年度(2019)
エネルギー起源CO_2		208	237	270	269	
その他ガス	非エネルギー起源CO_2					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		208	237	270	269	

(3)計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO_2）

CO_2換算（t-CO_2/指標）

				計画期間				
				27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	31年度(2019)
エネルギー起源CO_2排出量原単位				0.0782	0.0823	0.0827	0.0824	
活動規模の指標	○	床面積	㎡	2,661	2,879	3,266	3,266	

日本工業規格A列4番

事業所番号	005700

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告（A、Bテナント等事業所用）　　A事業所(3)

4　温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況　　A事業所

No	対策の区分			対策概要	実施年度	推計削減量(t)(一年度当たり)
	区分番号	区分名称				
		大区分	中区分			
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	ﾋﾞｼﾞﾈｽｶｼﾞｭｱﾙの推進（ﾎﾟﾛｼｬﾂ､ﾁﾉﾊﾟﾝ着用可能）	H26以前	
2	170300	負荷平準化	17_新エネルギー	太陽光発電設備を適正な運用	H28年度	
3	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	喫煙室の空調運転時間の見直し	H28年度	
4	130200	空気調和設備・換気設備	13_空気調和設備の効率管理	使用電力削減とＣＯ2低減を計る為、大型空調機の室外機の一部に水の噴霧で冷やす装置（エネカット）を導入。	H26以前	
5	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	照明、空調のコントロール範囲の改善による効率的な運用推進	H28年度	
6	130200	空気調和設備・換気設備	13_空気調和設備の効率管理	サーキュレーター設置位置調整による空調効率の向上	H28年度	
7	130200	空気調和設備・換気設備	13_空気調和設備の効率管理	空調コントロール範囲の分割による運用効率向上	H28年度	
8	130200	空気調和設備・換気設備	13_空気調和設備の効率管理	室外機の清掃、フィルター交換・洗浄	H31年度	10
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

※　入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。　　日本工業規格A列4番

5　事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄

1. 原単位について

弊社は、情報サービス業とソフトウェア開発業が事業所毎に事業が異なることから、省エネ法に準じ、事業活動毎にCO2の排出原単位を算出し、A事業所の原単位削減率としている。

平成30年度は、以下の結果となった。

(1) 情報サービス業

	基準年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平均
原単位	2.2127	2.0037	2.0229	1.9157	1.7912	
削減率	-	9.4%	-1.0%	5.3%	6.5%	5.1%

(2) ソフトウェア開発業

	基準年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平均
原単位	0.0861	0.0782	0.0823	0.0827	0.0824	-
削減率	-	9.2%	-5.2%	-0.5%	0.4%	1.3%

ソフトウェア開発業で目標である原単位削減1％が未達成となったが、情報サービス業での削減が大幅に達成出来たため、全体的には達成出来たと言える。

2. AGSグループの平成31年度の環境分野への取組は以下の通りである。

(1) 自然環境活動（植林活動）の拡張

埼玉県森林づくり協定を基とした、植林活動範囲の拡張。

(2) エコキャップ運動への参加

ペットボトルの回収を行い、近隣の小中学校への寄付を行う運動へ参加。

(3) 定時退社日の推進、有給休暇100％取得推奨

(4) クールビズ（5月1日～10月末）、ウォームビズ（11月1日～3月末）の推進

以上

平成 31 年度

事業者番号	0057	事業所番号	005701

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1　事業所の概要

(1)事業所種別

事業所種別	
Bテナント等	B 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上であり、他の事業所の一部である事業所

(2)事業所及び事業内容

事業所名	AGS株式会社　本社(さくら浦和ビル)			
事業所所在地	市区町村	埼玉県さいたま市浦和区		
	字・地番	針ヶ谷4丁目2番11号		
当該事業所を含む事業所の名称（※Bテナント等の場合のみ記入）	さくら浦和ビル			
産業分類名（中分類）	情報サービス業			
分類番号（中分類）	39			
事業活動の概要	事業内容 従業員数等	事業内容　：情報処理サービス、ソフトウェア開発 その他情報処理サービス システム機器販売 従業員数　：214名		

2　事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1)第2計画期間の削減目標

計画期間	27	年度	～	31	年度
削減目標 エネルギー起源CO_2（必須）	平成21年度の排出量原単位(2.1359)を基準として、平成31年度までに原単位15%改善する。				
削減目標 その他ガス					

(2)第3計画期間の削減目標

計画期間		年度	～		年度
削減目標 エネルギー起源CO_2（必須）					
削減目標 その他ガス					

事業所番号	005701

3 事業所の温室効果ガス排出量

(1)原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー使用量(kL)	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	31年度(2019)
	2,443	2,272	2,011	1,796	

(2)計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO_2換算(t-CO_2)

		計画期間				
		27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	31年度(2019)
エネルギー起源CO_2		4,864	4,526	4,001	3,574	
その他ガス	非エネルギー起源CO_2					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		4,864	4,526	4,001	3,574	

(3)計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況(エネルギー起源CO_2)

CO_2換算(t-CO_2/指標)

				計画期間				
				27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	31年度(2019)
エネルギー起源CO_2排出量原単位				2.1618	1.8679	1.6431	1.7580	
活動規模の指標								
	○	CVCFのCO2排出量	t-CO2	2,250	2,423	2,435	2,033	

事業所番号	005701

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対策の区分			対策概要	実施年度	推計削減量(t)(一年度当たり)
	区分番号	区分名称				
		大区分	中区分			
1	150100	受変電設備、照明設備、電気設備	15_受変電設備の管理	トップランナー変圧器（高効率のトランス）への更改	H27年度	20
2	150100	受変電設備、照明設備、電気設備	15_受変電設備の管理	ＣＶＣＦ1号機（KVA）高効率化へ更改	H29年度	58
3	130200	空気調和設備・換気設備	13_空気調和設備の効率管理	高効率空調機への更改	H31年度	3
4	130200	空気調和設備・換気設備	13_空気調和設備の効率管理	高効率空調機への更改	H32以降	2
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。　　日本工業規格A列4番

5　事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄

1. 対策と成果について
「事業所の温室効果ガス排出量の推移」 エネルギー起源CO2の平成30年度も、15%改善を上回る実績となった。

2. AGSグループの平成31年度の環境分野への取組は以下のとおりである。
(1) 自然環境活動（植林活動）の拡張
埼玉県森林づくり協定を基とした、植林活動範囲の拡張。

(2) 定時退社日の推進、有給休暇100%取得推奨

(3) クールビズ（5月1日～10月末）、ウォームビズ（11月1日～3月末）の推進

以上

第２計画期間　Ver.1.01

平成 30 年度

エネルギー起源ＣＯ２排出量算定資料

（Ａ事業所，Ｂテナント等事業所用）

資料作成日 令和1年7月11日

１　事業所の概要

名　　称 （A事業所の場合、代表事業所名称）	ＡＧＳ株式会社　本社（ＡＧＳビル）
所　在　地	埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷４－３－２５
事業所番号	005700

原油換算エネルギー使用量	1,489	ｋＬ
エネルギー起源ＣＯ２排出量	2,945	ｔ-ＣＯ２

特殊条件の設定

（１）高効率コージェネレーションシステムからの電気及び熱の受入れに関する削減量

削減量
t-CO2

（２）都市ガスの熱量　※都市ガス供給会社の定格値以外を使用する場合のみ設定する

名　称	種別	熱量（MJ/Nm^3）

（３）都市ガス・ＬＰＧ以外の気体燃料

燃料の種類	圧力（kPa）	温度（℃）
その他可燃性因然ガス		
コークス炉ガス		
高炉ガス		
転炉ガス		

（４）その他の燃料

	燃料の種類	単位	単位発熱量	排出係数
①			GJ/	t-C/GJ
②			GJ/	t-C/GJ

（５）自ら生成した熱・電気を事業者外に供給する場合の排出係数

区分	排出係数	区分	排出係数
自ら生成した熱	t-CO_2/GJ	自ら生成した電気	t-CO_2/千kWh

事業所番号	005700

平成30年度

２　燃料等使用量

排出活動の種類	燃料等の種類	都市ガスに係る情報		単位	燃料等使用量	合計
		メーター種	区分：供給熱量		平成30年度 合計	
①　事業所内へ供給される燃料等使用量						
電気の使用	東京電力からの買電_昼間			kWh	3,239,160.0	3,239,160.0
電気の使用	東京電力からの買電_夜間			kWh	2,164,714.0	2,164,714.0
燃料の使用	Ａ重油			L	780.0	780.0
電気の使用	東京電力からの買電_昼夜不明			kWh	543,424.1	543,424.1
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
②　①のうち算定対象から除く燃料等使用量						
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
③　再生可能エネルギーに係るもの						
再生可能エネルギーの自家消費	電気			kWh	5,140.7	5,140.7
						0.0
						0.0

事業所番号	005700

平成30年度

７　燃料等使用量及びエネルギー起源CO_2排出量（自動計算）　　ＡＧＳ株式会社　本社（ＡＧＳビル）

	種類			使用量（端数処理前）	使用量（端数処理後）	単位当たり発熱量	熱量	原油換算	原油換算使用量	排出係数	二酸化炭素排出量
					①	②	③=①×②	④	⑤=①×②×④	⑥	⑦=①×②×⑥×44/12
							GJ	kL/GJ	kL		t-CO_2
エネルギー起源CO_2	燃料及び熱	原油（コンデンセートを除く）		kL	kL	38.20 GJ/kL		0.0258		0.0187 t-C/GJ	
		原油のうちコンデンセート（ＮＧＬ）		kL	kL	35.30 GJ/kL				0.0184 t-C/GJ	
		揮発油（ガソリン）		kL	kL	34.60 GJ/kL				0.0183 t-C/GJ	
		ナフサ		kL	kL	33.60 GJ/kL				0.0182 t-C/GJ	
		灯油		kL	kL	36.70 GJ/kL				0.0185 t-C/GJ	
		軽油		kL	kL	37.70 GJ/kL				0.0187 t-C/GJ	
		Ａ重油		0.78 kL	1 kL	39.10 GJ/kL	39		1	0.0189 t-C/GJ	3
		Ｂ・Ｃ重油		kL	kL	41.90 GJ/kL				0.0195 t-C/GJ	
		石油アスファルト		t	t	40.90 GJ/t				0.0208 t-C/GJ	
		石油コークス		t	t	29.90 GJ/t				0.0254 t-C/GJ	
		石油ガス	液化石油ガス（ＬＰＧ）	t	t	50.80 GJ/t				0.0161 t-C/GJ	
			石油系炭化水素ガス	千Nm^3	千Nm^3	44.90 GJ/千Nm^3				0.0142 t-C/GJ	
		可燃性天然ガス	液化天然ガス（ＬＮＧ）	t	t	54.60 GJ/t				0.0135 t-C/GJ	
			その他可燃性天然ガス	千Nm^3	千Nm^3	43.50 GJ/千Nm^3				0.0139 t-C/GJ	
		石炭	原料炭	t	t	29.00 GJ/t				0.0245 t-C/GJ	
			一般炭	t	t	25.70 GJ/t				0.0247 t-C/GJ	
			無煙炭	t	t	26.90 GJ/t				0.0255 t-C/GJ	
		石炭コークス		t	t	29.40 GJ/t				0.0294 t-C/GJ	
		コールタール		t	t	37.30 GJ/t				0.0209 t-C/GJ	
		コークス炉ガス		千Nm^3	千Nm^3	21.10 GJ/千Nm^3				0.0110 t-C/GJ	
		高炉ガス		千Nm^3	千Nm^3	3.41 GJ/千Nm^3				0.0263 t-C/GJ	
		転炉ガス		千Nm^3	千Nm^3	8.41 GJ/千Nm^3				0.0384 t-C/GJ	
		その他燃料	都市ガス（※） 13A:45MJ/m^3		千Nm^3	45.00 GJ/千Nm^3				0.0136 t-C/GJ	
			13A:43.12MJ/m^3		千Nm^3	43.12 GJ/千Nm^3				0.0136 t-C/GJ	
			13A:46.04MJ/m^3		千Nm^3	46.04 GJ/千Nm^3				0.0136 t-C/GJ	
			12A:41.86MJ/m^3		千Nm^3	41.86 GJ/千Nm^3				0.0136 t-C/GJ	
			調整ガス:43.4MJ/m^3		千Nm^3	43.40 GJ/千Nm^3				0.0136 t-C/GJ	
			6A:29.30MJ/m^3		千Nm^3	29.30 GJ/千Nm^3				0.0136 t-C/GJ	
					千Nm^3						
					千Nm^3						
						GJ/				t-C/GJ	
						GJ/				t-C/GJ	
					①	②	③=①×②	④	⑤=①×②×④	⑥	⑦=①×⑥
		産業用蒸気		GJ	GJ	1.02 GJ/GJ		0.0258		0.060 t-CO_2/GJ	
		産業用以外の蒸気		GJ	GJ	1.36 GJ/GJ				0.057 t-CO_2/GJ	
		温水		GJ	GJ	1.36 GJ/GJ				0.057 t-CO_2/GJ	
		冷水		GJ	GJ	1.36 GJ/GJ				0.057 t-CO_2/GJ	
		再生可能エネルギーの環境価値を移転した熱		GJ	GJ					0.057 t-CO_2/GJ	
		小計					39		1		3
	電気				①	②	③=①×②	④	⑤=①×②×④	⑥	⑦=①×⑥（自家消費は⑦=①×⑥×1/2）
		一般電気事業者	昼間（8時～22時）	3239.16 千kWh	3,239 千kWh	9.97 GJ/千kWh	32,293	0.0258	833	0.495 t-CO_2/千kWh	1,603
			夜間（22時～翌8時）	2164.714 千kWh	2,165 千kWh	9.28 GJ/千kWh	20,091		518	0.495 t-CO_2/千kWh	1,072
		その他の買電		543.4241 千kWh	543 千kWh	9.76 GJ/千kWh	5,300		137	0.495 t-CO_2/千kWh	269
		再生可能エネルギーの環境価値を移転した電気		千kWh	千kWh					0.495 t-CO_2/千kWh	
		再生可能エネルギーを自家消費した電気		5.14074 千kWh	5 千kWh					0.495 t-CO_2/千kWh	△ 1
		小計					57,684		1,488		2,943
	外部供給	自ら生成した熱の供給		GJ	GJ					t-CO2/GJ	
		自ら生成した電力の供給		千kWh	千kWh					t-CO2/千kWh	
		小計									
	高効率コージェネレーションシステムからの電気及び熱の受入による削減量										
	合計						57,723	0.0258	**1,489**		**2,945**

第２計画期間　Ver.1.01

平成 30 年度

エネルギー起源ＣＯ２排出量算定資料

（Ａ事業所，Ｂテナント等事業所用）

資料作成日 令和1年7月11日

１　事業所の概要

名　　称 （A事業所の場合、代表事業所名称）	ＡＧＳ株式会社　本社（さくら浦和ビル）
所　在　地	埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷４－２－１１
事業所番号	005701

原油換算エネルギー使用量	1,796	ｋＬ
エネルギー起源ＣＯ２排出量	3,574	ｔ-ＣＯ２

特殊条件の設定

（１）高効率コージェネレーションシステムからの電気及び熱の受入れに関する削減量

削減量
t-CO2

（２）都市ガスの熱量　※都市ガス供給会社の定格値以外を使用する場合のみ設定する

名　称	種別	熱量（MJ/Nm^3）

（３）都市ガス・ＬＰＧ以外の気体燃料

燃料の種類	圧力（kPa）	温度（℃）
その他可燃性因然ガス		
コークス炉ガス		
高炉ガス		
転炉ガス		

（４）その他の燃料

	燃料の種類	単位	単位発熱量	排出係数
①			GJ/	t-C/GJ
②			GJ/	t-C/GJ

（５）自ら生成した熱・電気を事業者外に供給する場合の排出係数

区分	排出係数	区分	排出係数
自ら生成した熱	t-CO_2/GJ	自ら生成した電気	t-CO_2/千kWh

事業所番号	005701

平成30年度

２　燃料等使用量

排出活動の種類	燃料等の種類	都市ガスに係る情報		単位	燃料等使用量	合計
		メーター種	区分：供給熱量		平成30年度 合計	
①　事業所内へ供給される燃料等使用量						
電気の使用	東京電力からの買電_昼間			kWh	4,016,323.0	4,016,323.0
電気の使用	東京電力からの買電_夜間			kWh	2,877,469.0	2,877,469.0
燃料の使用	灯油			L	28,668.0	28,668.0
燃料の使用	都市ガス	低圧用	13A：45MJ/Nm3	m3	30,622.0	30,622.0
燃料の使用	都市ガス	低圧用	13A：45MJ/Nm3	m3	10,763.0	10,763.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
②　①のうち算定対象から除く燃料等使用量						
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
③　再生可能エネルギーに係るもの						
						0.0
						0.0
						0.0

事業所番号	005701

平成30年度

7　燃料等使用量及びエネルギー起源CO_2排出量（自動計算）

ＡＧＳ株式会社　本社（さくら浦和ビル）

	種類			使用量（端数処理前）	使用量（端数処理後）	単位当たり発熱量	熱量	原油換算	原油換算使用量	排出係数	二酸化炭素排出量
					①	②	③=①×②	④	⑤=①×②×④	⑥	⑦=①×②×⑥×44/12
							GJ	kL/GJ	kL		t-CO_2
エネルギー起源CO_2	燃料及び熱	原油（コンデンセートを除く）		kL	kL	38.20 GJ/kL		0.0258		0.0187 t-C/GJ	
		原油のうちコンデンセート（ＮＧＬ）		kL	kL	35.30 GJ/kL				0.0184 t-C/GJ	
		揮発油（ガソリン）		kL	kL	34.60 GJ/kL				0.0183 t-C/GJ	
		ナフサ		kL	kL	33.60 GJ/kL				0.0182 t-C/GJ	
		灯油		28.668 kL	29 kL	36.70 GJ/kL	1,064		27	0.0185 t-C/GJ	72
		軽油		kL	kL	37.70 GJ/kL				0.0187 t-C/GJ	
		Ａ重油		kL	kL	39.10 GJ/kL				0.0189 t-C/GJ	
		Ｂ・Ｃ重油		kL	kL	41.90 GJ/kL				0.0195 t-C/GJ	
		石油アスファルト		t	t	40.90 GJ/t				0.0208 t-C/GJ	
		石油コークス		t	t	29.90 GJ/t				0.0254 t-C/GJ	
		石油ガス	液化石油ガス（ＬＰＧ）	t	t	50.80 GJ/t				0.0161 t-C/GJ	
			石油系炭化水素ガス	千Nm^3	千Nm^3	44.90 GJ/千Nm^3				0.0142 t-C/GJ	
		可燃性天然ガス	液化天然ガス（ＬＮＧ）	t	t	54.60 GJ/t				0.0135 t-C/GJ	
			その他可燃性天然ガス	千Nm^3	千Nm^3	43.50 GJ/千Nm^3				0.0139 t-C/GJ	
		石炭	原料炭	t	t	29.00 GJ/t				0.0245 t-C/GJ	
			一般炭	t	t	25.70 GJ/t				0.0247 t-C/GJ	
			無煙炭	t	t	26.90 GJ/t				0.0255 t-C/GJ	
		石炭コークス		t	t	29.40 GJ/t				0.0294 t-C/GJ	
		コールタール		t	t	37.30 GJ/t				0.0209 t-C/GJ	
		コークス炉ガス		千Nm^3	千Nm^3	21.10 GJ/千Nm^3				0.0110 t-C/GJ	
		高炉ガス		千Nm^3	千Nm^3	3.41 GJ/千Nm^3				0.0263 t-C/GJ	
		転炉ガス		千Nm^3	千Nm^3	8.41 GJ/千Nm^3				0.0384 t-C/GJ	
		その他燃料	都市ガス（※） 13A:45MJ/m^3		40 千Nm^3	45.00 GJ/千Nm^3	1,800		46	0.0136 t-C/GJ	90
			13A:43.12MJ/m^3		千Nm^3	43.12 GJ/千Nm^3				0.0136 t-C/GJ	
			13A:46.04MJ/m^3		千Nm^3	46.04 GJ/千Nm^3				0.0136 t-C/GJ	
			12A:41.86MJ/m^3		千Nm^3	41.86 GJ/千Nm^3				0.0136 t-C/GJ	
			調整ガス:43.4MJ/m^3		千Nm^3	43.40 GJ/千Nm^3				0.0136 t-C/GJ	
			6A:29.30MJ/m^3		千Nm^3	29.30 GJ/千Nm^3				0.0136 t-C/GJ	
					千Nm^3						
					千Nm^3						
						GJ/				t-C/GJ	
						GJ/				t-C/GJ	
					①	②	③=①×②	④	⑤=①×②×④	⑥	⑦=①×⑥
		産業用蒸気		GJ	GJ	1.02 GJ/GJ		0.0258		0.060 t-CO_2/GJ	
		産業用以外の蒸気		GJ	GJ	1.36 GJ/GJ				0.057 t-CO_2/GJ	
		温水		GJ	GJ	1.36 GJ/GJ				0.057 t-CO_2/GJ	
		冷水		GJ	GJ	1.36 GJ/GJ				0.057 t-CO_2/GJ	
		再生可能エネルギーの環境価値を移転した熱		GJ	GJ					0.057 t-CO_2/GJ	
		小計					2,864		74		162
	電気				①	②	③=①×②	④	⑤=①×②×④	⑥	⑦=①×⑥（自家消費は⑦=①×⑥×1/2）
		一般電気事業者	昼間（8時～22時）	4016.323 千kWh	4,016 千kWh	9.97 GJ/千kWh	40,040	0.0258	1,033	0.495 t-CO_2/千kWh	1,988
			夜間（22時～翌8時）	2877.469 千kWh	2,877 千kWh	9.28 GJ/千kWh	26,699		689	0.495 t-CO_2/千kWh	1,424
		その他の買電		千kWh	千kWh	9.76 GJ/千kWh				0.495 t-CO_2/千kWh	
		再生可能エネルギーの環境価値を移転した電気		千kWh	千kWh					0.495 t-CO_2/千kWh	
		再生可能エネルギーを自家消費した電気		千kWh	千kWh					0.495 t-CO_2/千kWh	
		小計					66,738		1,722		3,412
	外部供給	自ら生成した熱の供給		GJ	GJ					t-CO2/GJ	
		自ら生成した電力の供給		千kWh	千kWh					t-CO2/千kWh	
		小計									
	高効率コージェネレーションシステムからの電気及び熱の受入による削減量										
	合計						69,602	0.0258	**1,796**		**3,574**